

銅スクラップ需給は低位安定

橋本金属 アルミ 橋本健一郎氏リポート①



■概況

九月前半は、中国政府発表の八月の非製造業PMIは五四・四と、七月の五四・二から小幅上昇、HSBCの八月中国サービス部門PMIは五四・二に上昇、一年五カ月ぶり高水準だったことや、ECBが政策金利を過去最低の〇・〇五％に引き下げ、マイナスイ金利拡大ABS及びカバードボンド購入を決定、低インフレ対策へあらゆる措置を講じると予想外の利下げを実施、量的緩和を決定したことなどのプラス材料もあったが、八月のADP民間雇用者数は二〇・四万人増加、予想の二二万人増には届かず、米新規失業保険申請件数は三〇・二万件に増加、予想の三〇万件を上回ったこと、中国の李首相が短期的な指標変動の影響は受けないと発言し、追加景気刺激策の実行は遠いとの判断からLME銅相場はDOWN、九月十五日時点で六・八五〇ドル(セツル)と月初価格より二一六ドルDOWNの前半締めとなった。

後半は米WSJの記者が米FRBは政策を変更しないと指摘した事、中国人民銀行が大手五行に五〇〇〇億元の支援を発表したこと、シカゴ連銀のハンス・ゼーガルが、「利上げ時期の決定を早まるべきではない」と述べた早期の政策金利の引き上げ観測が後退したとの市場の見方を裏付ける内容だった事、スコットランドの独立がなくなった事など、好材料もあったが、八月の米耐久財受注は前月比一八・二％減少、予想の一八％減少を下回ったこと、九月のエネルギー購買担当者景気指数(PMI)が九カ月ぶりの水準に低下したこと、米財務省などは前日に米企業が米国内での法人税軽減を目的とした海外企業の買収に対する対抗措置を発表したこと、LME銅相場は下落、十月一日現在、後半スタート価格から二一四ドル下落の六・七三六ドル、銅建値七八万円のスタートとなった。

■前月の経済指標

◆月間のドル/円レート(TTS)

一〇五・二〇→一一〇・四五(円)

◆自動車生産台数

日本自動車工業会によると、自動車生産台数は前年比六・七％減の六三万四、七四七台であった。

◆自動車販売台数

日本自動車販売協会連合会によると、自動車販売台数(軽除く)は前年比二・八％減の三万五、三二六台。

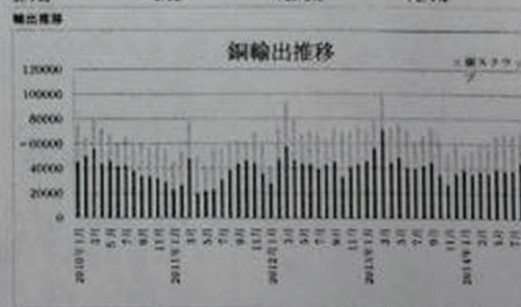
◆新設住宅着工戸数

国土交通省統計によると、新設住宅着工戸数は前年比一二・五％減の七万三、七七戸であった。

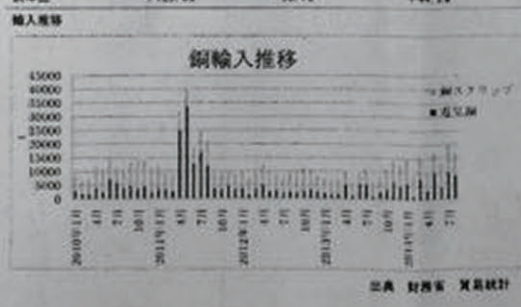
◆貿易関連指標

財務省貿易統計によると、輸出は前年比で電気銅が七・八％増の四万五、二八四t、スクラップが五・四％増の二万五、一四九t。輸入は電気銅が前年比八六・八・二％増の八、七二七t、スクラップ四四・二％増の七、五五二t。

	6月	7月	8月
輸出			
電気銅	2万8253t	2万8268t	4万5284t
前年比	-6.2%	-3.6%	+7.8%
スクラップ	2万8977t	2万9232t	2万5149t
前年比	-3.8%	+29.3%	+5.4%



	6月	7月	8月
輸入			
電気銅	4425t	9974t	8727t
前年比	-18.1%	+88.7%	88.2%
スクラップ	8927t	9679t	7552t
前年比	+125.7%	+68.1%	+44.7%



■前月の国内指標

日本伸銅協会発表の伸銅品生産推移(速報)によれば、前年比二・二％増の五万九、八三〇t。日本電線工業会発表の出荷速報(推定)は、前年比〇・七％減の五万四、三〇〇t。(六面へ続く)

住宅着工
自動車は生産、販売とも減少
なお減少

(四面より続く)

■見通し

八月の四輪車生産台数は六三万四、七四七台で、前年同月の六八万〇、五八七台に比べ四万五、八四〇台、六・七%の減少となり、二カ月連続で前年同月を下回った。

八月の車種別生産台数と前年同月比は次のとおり。
乗用車五三万二、九〇三台で四万二、九四四台、七・四%の減少となり、二カ月連続のマイナス。このうち普通車は二万〇、二九八台で九、三八三台、二・九%の減少、小型四輪車は二〇万八、五八一台で三万二、一三八台、二・八%の減少、軽四輪車は一、二五五、〇三三台で、四三三台、一・二%の減少。トラック九万二、〇九三台で、六〇一、二八台の減少となり、一四カ月ぶりにマイナス。このうち普通車は四万〇、一四六台で、三、八七七台、五・六%の減少、小型四輪車は二万二、四一四台で九、六七七台、四・三%の減少。軽四輪車は二万九、五三三台で七、五三三台、二・六%の増加。バス九、七五一台で二、九五五台、二・九%の減少となり、三カ月ぶりにマイナス。このうち大型は五、二六台で二、八三三台、三・五・四%の減少、小型は九、一三三台で二、八三三台、一・一%の減少。

八月の国内需要は三万三、四七一、四七一で、前年同月比九・一%の減少であった。うち乗用車二八万二、一三三台で前年同月比九・五%の減少、トラック五万二、一六五台で同七・二%の減少、バス九、八〇台で同五・二%の増加。輸出は前年同月比八・一%の減少(実績)。

九月の国内自動車販売台数(軽四を除く)は二万五、三三六台で前年比二・八%減。二カ月連続のマイナス。内乗用車五、五五五台、貨物二、六五五台、バス一、九七七台。八月の住宅着工戸数は七万三、七七一戸(前年同月比二・五%減)、季節調整済年率換算値で八四・五万戸(前月比〇・七%増)。消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動もあって、実数では前年同月比で減少している。一方、季節調整済値では、前月より若干の増加となった。持家注文住宅の着工については、昨年十月からの受注減により、本年二月から前年同月比で減少している。分譲マンションの着工については七カ月ぶりに一万户を超えたものの、本年二月から前年同月比で減少している。

(持家)

前年同月比では七カ月連続の減少(前年同月比二・七%減、季節調整済の前月比三・二%増)。

(貸家)

前年同月比では二カ月連続の減少(前年同月比三・八%減、季節調整済の前月比〇・四%減)。

(分譲住宅)

前年同月比では七カ月連続の減少(前年同月比二・〇%減、季節調整済の前月比二・五%減)。

(分譲マンション)

前年同月比では七カ月連続の減少(前年同月比六・八%減)。

(分譲二戸建住宅)

前年同月比では四カ月連続の減少(前年同月比二・四%減)。

伸銅品生産は前年比二・二%増の五万九、八三〇と、一四カ月連続プラス。このうち、内需四万八、七九四と一・九%増と二カ月連続プラス。輸出一万二、〇三六と三・七%増と二カ月ぶりプラス。品別別では、銅条二万九、四四〇と五・九%増と、一四カ月連続プラス。黄銅棒一万三、四一八と三・四%減と、一四カ月ぶりマイナス。

銅電線出荷量は、前年比〇・七%減の五万四、三三〇と。うち、国内三、四四%減、輸出が九、七%増。部門別では通信七・五%減、電力一〇・三%減、電気機械六・一%減、自動車三・八%減、建設電版一・五%減、その他内需二・二%増。

銅輸出は、電気銅輸出が前年比七・八%増の四万五、二八四と。銅スクラップは五・四%増の二万五、一四九と。

輸入は電気銅が八六八・二%増の八、七二七と。スクラップは四四・二%増の七、五五二と。

【見通し】

・自動車は生産が前月に続き減少の六・七%減。また九月の国内販売台数も前年比二・八%減と悪化。販売の減少が続くメーカーもそれに伴い生産を調整した。

・新設住宅着工数は前年比二・五%減。季節調整済年率換算値で八四・五万戸(前月比〇・七%増)。消費税率の駆け込み需要も終了。六カ月連続減少。ただ季節調整済換算では若干プラスであり、今後の動向に期待する。

・伸銅品は一四カ月連続増と好調だが、住宅着工の減少を受けて黄銅棒が一四カ月ぶりに減少した。ただ住宅も下げ止まりの感もあり今後の動向に注目。

・輸出は国内需要家が中間決算による原料手当てを調整したため輸出が増加したとの見解。

・輸入は需要に先行き不透明感はあるものの、円安に備えた前倒しの購入分や製造業が比較的好調なため増加。これ以上の円安も考えにくい。が内需も弱く輸出増になるとの見解。

・スクラップは、為替が前月から五円以上安い一〇九円(TTM)に近い水準ではあるが、内需が弱いことや中国景気の後退が見え始めていることから発生、需要とも弱く、低位安定との見解。

【価格為替予想】

・今月は中国の景気対策及び、香港デモとの対応に左右される。

中国の樓建偉・財政相は二十一日、豪ケアンズで開催された二〇カ国・地域G二〇財務相・中央銀行総裁会議で、中国はある一つの経済指標を理由に、政策を大幅に変更することはないとの姿勢を示し、中国人民銀行(中央銀行)も声明で明らかにした。ことから、規制緩和などの小規模な対策はするが大規模な景気対策が行われる可能性は低い。

香港デモに関しては、第二の天安門事件が起る可能性もあるし、首謀者が見せしめ逮捕されてトーンダウンする可能性もある。ただし香港デモ隊の要求が一〇〇%通る可能性は低い。

それらを踏まえた十月の銅価格は、中国が大規模な財政出動などの景気対策を行い、香港デモ隊と折り合いが平和的だった場合、九月高値の一段高の七、一〇〇ドルを予測。いずれの場合も六、九〇〇ドル下値はいずれの条件も達成できなかった場合、もう一段安値の六、六〇〇ドル。

為替はECBが予想外に政策金利を引き下げたことや、米国の景気回復によるドル買いから五円以上の大幅な円安に振れたものの、これ以上のECBの政策変更する可能性は低く、また、米国の景気悪化も考えにくい。

対円より一円高から上値は八月高値の一〇五円台下値は変化なければ二〇〇円との予測(TTM)。銅建値に関しては七四〇〇〇円程度と予測している。